

岩手県における視聴覚メディアの活用の実際

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 岩淵 忠徳

東日本大震災津波発災の翌月から実施してきた「沿岸地域出前映写会支援事業」は、被災地の人々の心のケアやコミュニティの再生に大きく寄与してきた。また、本事業を通じて、沿岸部と内陸部の横軸連携による支援ネットワークが構築され、多様なボランティア活動が展開されている。

【キーワード】 被災地支援 心のケア コミュニティ再生 コミュニケーション

1. 本県の視聴覚教育の現状

本県には、県内の地域視聴覚教育協議会及びライブラリーが連携を図ること及び本県視聴覚教育の振興に寄与することを目的に、「岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会（県視連）」が設置されており、現在県内15の地域視聴覚教育協議会及びライブラリーが加入している。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、本県沿岸部の地域視聴覚教育協議会及びライブラリーが大きな被害を受けたが、県内外の多くの関係機関・団体より支援をいただきながら、視聴覚教育による被災地支援に継続して取り組んでいる。

2. 実践・活動の概要

岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会では、大震災発災後、「沿岸地域出前映写会支援事業」を実施している。

この事業は、沿岸地域の公民館等の社会教育施設、学校、仮設住宅集会所等における映写会（16ミリ映写等）に映写ボランティア等を派遣するものである。派遣に係る経費（旅費）は、岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会より支出される。



「沿岸地域出前映写会」の様子

本事業による初めての出前映写会は、大震災発災後間もない平成23年4月15日、宮古市立宮古小学校で実施された。開催に係る人・物全てを内陸部が負担し、現地に一切負担をかけないという実施形態である。簡単なレクリエーションを交えた映写会を実施することで、震災後様々なストレスを抱えた子どもたちに、心安らぐ時間を提供することができた。

以後、沿岸地域の復旧・復興の状況に応じて、会場や内容を変えながら、今年度まで継続して実施している。

3. 実践の結果と今後の取り組み

50回を超える出前映写会は、本事業の目的である被災地住民の心のケアやコミュニティ再生に十分に寄与するものである。また、横軸（沿岸部と内陸部）連携による支援活動が展開され、ボランティア活動の意義も広めることができた。幅広い世代を対象とした映写会は、視聴覚メディアの活用促進にもつながっている。

本事業以外にも、本県の各地域では、子どもたちを対象とした映写会が数多く行われている。沿岸地域の出前映写会同様、視聴後に感想を交流したり、教材の内容に合わせたレクリエーションを実施したりするなど、コミュニケーションの場が意図的に組み入れられているケースも多い。このような取組は、映写会の魅力や視聴による学習効果を高めるものであり、災害の有無にかかわらず、今後さらに拡充していきたいと考える。

また、少子高齢化が進む中、高齢者を対象とした映写会も数多く開催されている。高齢者サロンなどで上映する内容は、視聴者を元気にする娯楽的なコンテンツが多くなっている。

時代の流れとともに、視聴覚メディアに対するニーズも大きく変化している。県内全域でより充実した視聴覚サービスが展開されるよう、関係機関・団体の連携を密にし、取組を継続していきたい。